

(様式1)

令和5年度 学校運営協議会自己評価表

浜松市立曳馬小学校運営協議会長

＜本年度の目標＞

- ・ 3年目となるので、今まで以上に学校と委員とで情報共有をし、子供たちのために協力体制をつくる。

＜評価項目1＞ 学校運営の基本方針について熟議することができたか。

- 学校教育目標、「子供たちの思いをかなえる」をわかりやすい言葉で表現され、校長の熱意、学校をよくしていきたい思いが感じられ、説明によって十分理解すると共に各委員の理解も深まり熟議することができた。
- 「学校教育目標」に加え、「子供たちが知りたい、やってみたい」をかなえる学校として、具体的に4つの柱に分け、目指す姿が明確に分かり、熟議ができた。
- 校長の示す学校運営の基本方針について目指す子供像やビジョンなどの新しい方向性の説明を受け、これからの挑戦する熱いものが感じられた。もう少し時間があれば、熟議に至り理解が深まるのではないかと感じた。

＜評価項目2＞ 承認した学校運営の基本方針に沿った、教育活動の充実につながる学校支援活動などについて熟議を進めることができたか。

- 学校運営に関しての熟議は地域と学校とのつながりが年々増してきていると感じた。また熟議の質も上がってきていると思う。一方で、地域・保護者への周知という点では、まだまだ不足していると感じる。
- CS協力依頼の一覧表により、各委員とオブザーバーの曳馬協働センターより多くの情報提供があり協力事業が実現した。学校支援コーディネーターが個人的な地域のネットワークにより多くの協力を実現して、熟議が進んだ。

＜評価項目3＞ 協議会での協議結果について、十分な情報発信を行ったか。

- CSの協力依頼（授業支援）について各委員に情報提供や直接参加依頼をして多くのメンバーが参加、紹介（協力者を）してくれた。
- 十分とは言えないが、一緒に活動している授業ボランティアの方々には、情報発信を行った。徐々にボランティアが増えているのはその成果だと思う。

＜評価項目4＞ 今年度の取組の評価を踏まえた来年度の目標（取組の重点）

- 本年度の目標を継続し、さらにしっかり協力体制をつくる。そのために、授業中や休み時間の様子などの子どもたちの姿を見て、話し合うことを大切にしたい。
- 曳小の卒業生や地域の方の発掘で出前講座など魅力ある大人との出会いをさらに進められるように、学校支援コーディネーターと協議会の委員、先生方、協力してくださった方々ともさらに協力して進めていきたい。
- 実現したCS協力事業を、学校側と協力者がそれぞれ振り返り、改善点を探し次年度以降に有効に活用できる仕組み作りをし、協力事業をよりよく持続可能なものにしていく。